

ハディーヤ語における動詞語幹末と 人称接辞の間に起きる変化¹

二ノ宮 崇司

(カザフ国立大学)

s0430062.ninomiya@gmail.com

Abstract

This paper studies phonological changes occurring at the boundary of verbal stems and the following pronominal suffixes in Hadiyya. By observing verb paradigms collected by fieldwork in Hosaina, one may notice that various phonological changes occur in the pronominal suffixes 2sg., 2pl. and 3sg.f., with the initial sound /t/ as well as 1pl. the initial sound /n/. The *i* is inserted between the last consonant of the verbal stem and the initial /t/ or /n/ in the pronominal suffixes, when the stem ends with /VCC/. By contrast, when the stem ends with one consonant, the following changes occur: progressive assimilation of the initial /t/ of the pronominal suffix to the final /b, d, t', g, k', f, s, ʃ, ʒ, ʧ/ of the stem, regressive assimilation of the stem final /r, m/ to the initial /t/ of the pronominal suffix, syncope of the stem final /h/, change of the stem final /h/ to /k/ with the pronominal suffixes 2sg., 2pl. and 3sg.f., as well as metathesis of the stem final /b, t, d, t', g, k', f, s, ʃ, ʒ, ʧ, h/ and the initial /n/ of the pronominal suffix, progressive assimilation of the initial /n/ of the pronominal suffix to the final /l, m/, change of the stem final /r/ to /l/, syncope of the stem final /h/ with the pronominal suffix with 1pl..

1 はじめに

筆者は 2008 年 2 月にエチオピアを訪問して以来、ハディーヤ語文法、語彙の記述に努めている。最初にハディーヤ語のデータを収集したのは Awasa であった。2 回目 (2009 年 12 月~2010 年 1 月)、3 回目 (2016 年 1 月) のフィールドワークはハディーヤ・ゾーンの中心であるホサンナ (Hosaina) で行った。フィールドでは単語の収集を行うとともに、被調査者に対して文法事項に関する質問を行っている。その際、先行研究で挙げられていない規則を目の当たりにす

¹ 本稿の略号は次の通りである。1=1 人称、2=2 人称、3=3 人称、sg.=単数、pl.=複数、m.=男性、f.=女性、pol.=敬体、C=子音、V=母音。

ることがある。その 1 つに動詞の人称接辞（主語一致標識）における変化がある。本稿の目的はハディーヤ語の人称パラダイムのデータを示し、その変化の規則を示すことにある。

2 先行研究

ハディーヤ語の先行研究における音韻、文法については二ノ宮 (2008, 2009) でまとめられている。二ノ宮 (2009) の 3.2.4.1 節から 3.2.4.13 節は Hudson (1976), Plazikowsky-Brauner (1960), Korhonen et al. (1986) といった先行研究の人称接辞を紹介している。Hudson (1976) によれば、ハディーヤ語の TMA (Tense, Mood, Aspect) には単純過去形、現在完了形、未完了形、希求形などがあり、人称接辞の形が各々異なる。前者 3 つの TMA は基本的に人称接辞の母音の違いによって異なる。例えば 2sg. に関して、単純過去形は *-titto*、現在完了形は *-taatto*、未完了形は *-tootto* となる。表 1 に Hudson (1976) による現在完了形の人称接辞を提示する。

表 1: 現在完了形の人称接辞 (Hudson 1976: 264-265)

	sg.	pl.
1	<i>-ammo</i>	<i>-naammo</i>
2	<i>-taatto</i>	<i>-takka'okko</i>
3m.	<i>-aako</i>	<i>-ta'okko</i>
3f.	<i>-ta'okko</i>	
3pol.	<i>-akka'okko</i>	

この研究は他の研究と異なり、人称接辞のみを示している。なお Hudson (1976: 265) によれば「3pl.と 3sg.f.、そして場合によって 3pol.は同じ形になる」という。また Hudson (1976: 264) は「語幹が二重子音もしくは子音連続の時、2sg.の接辞は *-titto* の代わりに *-itto* になる」と指摘する。語幹末が C か CC かで接辞の形式が異なるということが分かる。

表 2 は Korhonen et al. (1986) の例である。この研究は Hudson の場合と異なり、動詞全体の形を示している。なお 3pl.には *massakko*, *massamaakko*, *massito'okko* という変種を挙げているが、どのような条件によって、3 つの使い分けが行われるかを明らかにしていない。

表 2: mass-「手に取る」の現在完了形 (Korhonen et al. 1986: 110)

	sg.	pl.
1	<i>massaammo</i>	<i>massinaammo</i>
2	<i>massitaatto</i>	<i>massitakko'okko</i>
3m.	<i>massaakko</i>	<i>massakko</i> , <i>massamaakko</i> , <i>massito'okko</i>
3f.	<i>massito'okko</i>	
3pol.	<i>massakko'okko</i>	

表 3 は Plazikowsky-Brauner (1960) による過去 I 形² (現在完了形) のパラダイムである。

表 3: ban- 「離す」 の過去 I 形 (Plazikowsky-Brauner 1960: 64)

	sg.	pl.
1	banâmo	bannâmo
2	bantâtto	bantako'ôko
3m.	banāko	banako'ôko
3f.	banta'ôko	

Korhonen et al. (1986) は人称パラダイムを示しているが、人称接辞の変化について言及していない。しかし Plazikowsky-Brauner (1960: 54) は変化が起こる条件を幾つか提示している。それによれば、2sg., 1pl., 2pl. で同化が起こるといふ。そして 2 人称接辞の初頭の t- は b, d, f, g [g], k, q [k'], p, p' [p'], č [tʃ], č̣ [tʃ̣], w の影響でそれぞれ bb, dd, gg, kk などとなる。さらに語幹末が r の場合 tt もしくは ll に、h の場合 tt もしくは kk に、' [ʔ] の場合 l もしくは 'l になるという。一方 1pl. の場合、語幹末の子音が b, d, f, g, k, k', p, p', s, š [ʃ], t [t'] の場合、人称接辞における初頭の n- と音位転換を起こすといふ³。r の場合、接辞の初頭の n と影響を受けあいながら、ll になるとも述べている。また語幹末の子音が ll, ss, ff と二重子音化する時、また子音連続における 2 つ目の子音が t, s, f の時、2sg. と 1pl. の接辞の間には i か ě が挿入されるという。Plazikowsky-Brauner (1960) の記述をまとめると以下のようなになる。

表 4: Plazikowsky-Brauner (1960) が指摘する変化のまとめ

変化の種類	2sg., 2pl. が後続する場合	1pl. が後続する場合
完全順行同化	C+t → CC C = b, d, f, g, k, k', p, p', t, t', w	言及なし
完全逆行同化	C+t → tt C = r, h	言及なし
l 音化	r+t → ll	r+n → ll
k 音化	h+t → kk	言及なし
語幹末子音の消失	'+t → l	言及なし
音位転換	言及なし	C+n → nC C = b, d, f, g, k, k', p, p', s, š, t'
i もしくは ě の挿入	CC+t → CCit CC = ll, ss, ff, Ct, Cs, Cf	CC+n → CCin CC = ll, ss, ff, Ct, Cs, Cf

² Plazikowsky-Brauner (1960) は過去形 (Praeteritum) に I 形と II 形を認めている。I 形は Hudson (1976) の現在完了形に、II 形は同研究の単純過去形に相当する。

³ Plazikowsky-Brauner (1960:54) による音位転換の例は次の通りである。it- 「食べる」 の 1sg. が itômo であるのに対し、1pl. は intômo となっている。即ち、1pl. では tn が音位転換を起こして、nt になったと先行研究は考えている。

Plazikowsky-Brauner (1960) はハディーヤ語の人称接辞が多様な変化を起こすことを示しており、その情報は筆者のフィールド調査にとって参考となるものであった。ただ時代差、方言差を考慮すれば、Plazikowsky-Brauner (1960) などの先行研究が対象とした被調査者の言語変種と本研究の被調査者の言語変種とが同じであるとは考えにくい。よって、先行研究は参考程度にとどめ、今回調査に協力してもらった被調査者のデータからハディーヤ語の人称接辞の規則を検討する。

3 調査方法

本調査に協力してもらった被調査者はハディーヤ・ゾーンの Tetemea の Gibe で過ごしたバドゴ族 (Badogo, Baadoogo) の出身の T 氏である。柘植 (1992: 181) によれば、ハディーヤ語はレーモ、リビド、シャシャゴ、ソロの 4 方言に分かれるという。部族に関して、Gudisaanchi Hadiyyi Zoo'n Losa'n Deska (1996: v) はマーラコ、レーモ、バドゴ、ソロ、バーダツワッチョ、シャシャゴ部族に分かれるという。バドゴ部族の被調査者に自分の方言の帰属について質問したところ、柘植の 4 分類の何れに属すのかは不明であると回答した。そのため本調査では被調査者のデータがハディーヤ語のどの方言に属するのかを特定しない。調査データは 2016 年の 1 月にホサンナの T 氏の自宅で収録した。本稿では現在完了形における 1sg., 2sg., 3sg.m., 3sg.f., 1pl., 2pl., 3pl. のパラダイムを付録に提示する。

4 変化の規則

以下に人称接辞を示す。なお本調査で得られたデータの表記法は先行研究と異なり、IPA を基にしている。また音素表記は / / で囲い、形態素は { } で囲う。

表 5: 現在完了形の人称接辞

人称・性		sg.	pl.
1		{a:mo}	{na:mo}
2		{ta:to}	{takko'o:ko}
3	m.	{a:ko}	{ama:ko}
	f.	{to'o:ko}	

Korhonen et al. (1986) は 3pl. に massakko, massamaakko, massito'ok-ko という変種を挙げていた。しかし今回の調査では先行研究にない {ama:ko} という形が確認された。Korhonen et al. (1986) による 2 番目の amaakko の語中は重子音 kk となっているが、本稿の {ama:ko} では単子音 k となっている。また Hudson (1976: 255) は 3sg.f. と 3pl. は同じ形になると指摘していたが、そうはなっていなかった。3sg.f. に関して、Hudson (1976) は -ta?okko のように語中に声門閉鎖音を認めて

いるが、被調査者の発音からは明確な閉鎖が見られず、喉頭化(本稿では?という記号を用いる)が起きている程度であることが確認された。

語幹末の子音との影響で、人称接辞の初頭音が変化を起こすのは、2sg., 2pl., 3sg.f.と1pl.である。それ以外の人称接辞では形式が保持される。2sg., 2pl., 3sg.f.に関して、次のような変化が起きる。

- 語幹末が /b, d, t', g, k', f, s, ʃ, ʒ, ʧ'/ の時、かつこれらの子音の直前が母音である時、現在完了形における人称接辞の初頭の /t/ は語幹末子音と同化して、/bb, dd, t't'/ のように二重子音化する(付録の例 1-13)。つまり /Vb/+t/ → /Vbb/, /Vd/+t/ → /Vdd/ となる。
- /Vʔ/+t/ は /Vʔl/ となり(例 14, 15)、/Vr/+t/ の時は逆行同化が起きて、/Vtt/ となる(例 16, 17)。Plazikowsky-Brauner (1960) は r+t が tt もしくは ll になると指摘していたが、/ll/ の例を調査結果から確認することはできなかった。
- /Vm/ + /t/ の組み合わせでは、/Vmt/ となる場合と、部分同化によって /m/ が [n] となる場合とがある(例 18, 19)。/Vh/ + /t/ において、/Vkk/ の場合と /Vt/ となる場合とを確認した(例 20, 21)。
- 語幹末が二子音連続の場合、語幹末最後の子音と人称接辞の初頭の /t/ との間に i 母音が挿入される(例 22-24)。例えば、/?n/ + /t/ では /?nit/ となり、/kk/ + /t/ では /kkit/ となる。これは第2節で言及した Hudson (1976) の指摘どおりであった。なお {fatak-} 「引き離す」の語幹末は単子音 /k/ であるが、/kit/ のように i 母音が挿入された(例 25)。語幹末が /k/ で終わる(例 25)は語幹末が /g/ の(例 5)、/k'/ の(例 6, 7)と異なる振る舞いをする。これらの音は軟口蓋破裂音という点で共通している。しかし有声軟口蓋破裂音と放出軟口蓋破裂音は後続の /t/ を順行同化させる一方、無声軟口蓋破裂音は /kt/ という破裂音の連続を避けるために、i 母音の挿入が起きたと考えられる。
- 語幹が単子音から成り立つ語として、{j-} 「言う」と {f-} 「殺す」がある(例 26, 27)。これらの例では、jt- のような語頭の二子音連続を避けるため、i 母音の挿入という音韻規則が起きたと考えられる。

以上が T 氏のデータから明らかになった変化である。これら以外の /Vt, Vn, VI/ + /t/ という組み合わせにおいて、語幹末の子音は変化しない(例 28-32)。ちなみに(例 32)では語幹 {du:m-} の直後に /an/ が付加されている。なお Plazikowsky-Brauner (1960: 54) によれば、k + t は kk になるというが、そのような例はまだ確認できていない。Plazikowsky-Brauner (1960) が順行同化を起こすと指摘する /p, p', ʃ, w/ の例も本調査において確認できていない。次に人称接辞が 1pl. の場合の変化を確認する。

- 人称接辞の初頭の /n/ は特定の語幹末子音と音位転換を起こす。語幹末子音が /b, t, d, t', g, k', f, s, ʃ, ʒ, ʃ', h/ かつこれらの子音の直前が母音の場合において、/n/ との音位転換が起きていた (例 1-13, 20, 28, 29)。例えば /Vt/ + /n/ は /Vnt/ と、/Vd/ + /n/ は /Vnd/ となる。なお /b, g, k'/ の場合、/n/ は部分同化を起こし、[mb, ŋg, ŋk'] となる (例 1, 5-7)。/Vh/ + /n/ の場合は、音位転換により /Vnk/ [ŋk] となる場合と、/h/ が消失して /Vn/ となる場合とがある (例 20, 21)。
- /Vr+n/ は /VII/ に、/VI+n/ は順行同化によって /VII/ となる (例 16, 17, 31)。/Vm+n/ も順行同化によって /Vmm/ となる (例 18, 19, 32)。なお (例 32) において、語幹 {du:m-} の直後に /mam/ が付加されていると考えられる。
- 語幹末が二子音連続、さらには /Vk/ の時、/n/ との間に i 母音が挿入される (例 22-25)。
- {j-} 「言う」と {ʃ-} 「殺す」といった単子音語幹の場合でも、/n/ と間に i 母音が挿入される (例 26, 27)。

以上、1pl.における変化の種類を確認した。語幹末がこれら以外の /Vʔ, Vn/ の時、子音は維持される (例 14, 15, 30)。ちなみに Plazikowsky-Brauner (1960: 54) は b, d, f, g, k, k', p, p', s, ʃ という子音で音位転換が起こると指摘したが、本調査は /p, p'/ の場合をまだ確認できていない。次に、上で確認した変化を下の表にまとめる。

表 6: 動词语幹末と人称接辞の間で起きる変化のまとめ

変化の種類	2sg., 2pl., 3sg.f.が 後続する場合	1pl.が後続する場合
完全順行同化	C+t → CC C=b, d, t', g, k', f, s, ʃ, ʒ, ʃ'	C+t → CC C=l, m
完全逆行同化	r+t → tt	—
部分逆行同化	m+t → nt	—
l 音化	—	r+n → ll
k 音化	h+t → kk	—
消失	h+t → t	h+n → n
音位転換	—	C+n → nC C=b, t, d, t', g, k', f, s, ʃ, ʒ, ʃ', h
i 母音の挿入	X+t → Xit X=k, CC, 単子音語幹	X+n → Xin X=k, CC, 単子音語幹

表 6 の変化を知っていれば、表 5 の形態素から適切な人称接辞を導きだせ、また語幹末にいかなる音を置けばよいのかを示せる。本節の最後に 2sg., 2pl., 3sg.f.

の人称接辞と語幹末子音で起きる変化、そして 1pl.の人称接辞とそこで起きる変化を子音ごとに示す。

<2sg., 2pl., 3sg.f.の場合>

- 語幹末を二子音連続の場合と単子音の場合とに分ける。
- 二子音連続の場合、語幹末と人称接辞との間に i 母音が挿入される。
- 単子音の場合、以下の変化が起きる。
 - (1) /b, d, t', g, k', f, s, ʃ, ʒ, ʃ', h/ は後続の /t/ を順行同化させる。
 - (2) /r/ は 後続 /t/ の影響で逆行同化を起こし、/t/ となる。
 - (3) /m/ は保持の場合と、後続 /t/ の影響で部分逆行同化を起こして、[n] となる場合とがある。
 - (4) /h/ は /k/ になる場合と、消失の場合とがある。
 - (5) /k/ は単子音で終わるものの、二子音連続のような振る舞いをする。すなわち /k/ と人称接辞との間で i 母音の挿入が起きる。

これら以外の /t, n, l, ʔ/ といった子音が語幹末に単子音という形で現れる場合、保持される。なお (3) の /m/ が人称接辞 /t/ の前で保持されるのか、あるいは [n] になるのかという分裂条件は不明である。そして (4) の /h/ から /k/ への変化、あるいは消失の条件も明らかでない。

<1pl.の場合>

- 語幹末を二子音連続と単子音に分ける。
- 二子音連続の場合、人称接辞 /n/ との間に i 母音が挿入される。
- 単子音の場合、以下のようなになる。
 - (6) /b, t, d, t', g, k', f, s, ʃ, ʒ, ʃ', h/ で音位転換を起こす。その際、/b/ では /nb/ となり [mb] と実現し、/g, k'/ では /ng, nk'/ となり [ŋg, ŋk'] として現れる。
/h/ は /nh/ ではなく /nk/ [nk'] と変化する場合と消失の場合とがある。
 - (7) /l, m/ では完全順行同化が起きる。
 - (8) /r/ の場合、後続の /n/ との影響で /ll/ となる。

/ʔ, n/ という子音は語幹末において保持される。ちなみに (6) の /h/ が /k/ に変化する場合と消失する場合の条件については、明らかでない。

5 おわりに

2016年1月に行ったフィールド調査ではハディーヤ語における人称接辞のデータを複数個収集した。これは 2sg., 2pl., 3sg.f. と 1pl. という人称接辞の初頭に現れる子音とその直前に来る語幹末子音の変化の種類を可能な限り明らかにする

ことを目的とする調査であった。データを分析したところ、次のようなことが分かった。初頭が /t/ で始まる 2sg., 2pl., 3sg.f. と初頭が n- で始まる 1pl. の人称接辞に着目したところ、前者にせよ後者のタイプにせよ、語幹末が二子音連続の場合、また単子音語幹の語の場合、直後に i 母音が現れた。語幹末が単子音となる場合、人称接辞の t- は順行同化、逆行同化、/k/音化、消失そして保持の存在を確認することができた。他方、/n/ ではじまる 1pl. の人称接辞の例を分析したところ、音位転換、順行同化、/l/ 音化、消失という変化だけでなく、/n/ が保持される場合もあった。以上が人称接辞の記述から今回明らかになったことである。しかし語幹末が /Vz, Vɟ, Vw, Vj, Vp, Vpʻ/ となる例を調べていないため、人称接辞の記述としては不足しているところがある。次のフィールド調査でこれらの項目を補填して、人称接辞における変化の種類を確定させる。また今回のフィールド調査で /Vk/ の例として {fatak-} のパラダイムを収集した。この例はなぜか語幹末が二子音連続の語と同じような振る舞いをする。他の /Vk/ を含む例においても、そのような傾向になるのかを調べる必要がある。

【参照文献】

- Gudisaanchi Hadiyyi Zoo'n Losa'n Deeska (1996) *Hadiyyis-Ingilliisis Saga'l Doona*. Wachchamo: Berhanena Selam Printing Enterprise.
- Hudson, Grover (1976) "Highland East Cushitic." In: M. Lionel Bender (ed.) *The non-Semitic languages of Ethiopia*, 232-277. East Lansing: Michigan State University.
- Korhonen, Elsa, Mirja Saksa and Ronald James Sim (1986) "A dialect study of Kambaata-Hadiyya (Ethiopia) Part 2: Appendices." *Afrikanistische Arbeitspapiere* 6: 71-121.
- Plazikowsky-Brauner, Herma (1960) "Die Hadiya-Sprache." *Rassegna di Studi Etiopici* 16: 38-76.
- 二ノ宮崇司 (2008) 「高地東クシ・ハディーヤ語の音韻調査」 乾秀行・柘植洋一 (編) 『科学研究費補助金報告書 (*Cushitic-OmotiC Studies* 2007)』 161-176.
- 二ノ宮崇司 (2009) 「ホサンナにおけるハディーヤ語の調査の概要」 乾秀行・柘植洋一 (編) 『科学研究費補助金報告書 (*Cushitic-OmotiC Studies* 2008)』 87-129.
- 柘植洋一 (1992) 「ハディーヤ語」 亀井孝・河野六郎・千野栄一 (編) 『言語学大辞典 世界言語編 (下-1)』 3: 181-182. 三省堂

【付録】

(例 1) sab- 「断る」

		sg.	pl.
1		saba:mo	samba:mo
2		sabba:to	sabbakko'o:ko
3	m.	saba:ko	sabama:ko
	f.	sabbo'o:ko	

(例 2) gad- 「嫌う」

		sg.	pl.
1		gada:mo	ganda:mo
2		gadda:to	gaddakko'o:ko
3	m.	gada:ko	gadama:ko
	f.	gaddo'o:ko	

(例 3) k'e:fad- 「捕まえる」

		sg.	pl.
1		k'e:fada:mo	k'e:fanda:mo
2		k'e:fadda:to	k'e:faddakko'o:ko
3	m.	k'e:fada:ko	k'e:fadama:ko
	f.	k'e:faddo'o:ko	

(例 4) mit'- 「望む」

		sg.	pl.
1		mit'a:mo	mint'a:mo
2		mit't'a:to	mit't'akko'o:ko
3	m.	mit'a:ko	mit'ama:ko
	f.	mit't'o'o:ko	

(例 5) ag- 「飲む」

		sg.	pl.
1		aga:mo	anga:mo [aŋga:mo]
2		agga:to	aggakko'o:ko
3	m.	aga:ko	agama:ko
	f.	aggo'o:ko	

(例 6) mik'-「支払う」

		sg.	pl.
1		mik'a:mo	mink'a:mo [m'ɪŋk'a:mo]
2		mik'k'a:to	mik'k'akko'o:ko
3	m.	mik'a:ko	mik'ama:ko
	f.	mik'k'o'o:ko	

(例 7) k'u:k'-「怒る」

		sg.	pl.
1		k'u:k'a:mo	k'u:nk'a:mo [k'u:ŋk'a:mo]
2		k'u:k'k'a:to	k'u:k'k'akko'o:ko
3	m.	k'u:k'a:ko	k'u:k'ama:ko
	f.	k'u:k'k'o'o:ko	

(例 8) tʃe:f-「つける、沈める」

		sg.	pl.
1		tʃe:fa:mo	tʃe:nfa:mo
2		tʃe:ffa:to	tʃe:ffakko'o:ko
3	m.	tʃe:fa:ko	tʃe:fama:ko
	f.	tʃe:ffo'o:ko	

(例 9) hos-「いない状態になる」

		sg.	pl.
1		hosa:mo	honsa:mo
2		hossa:to	hossakko'o:ko
3	m.	hosa:ko	hosama:ko
	f.	hosso'o:ko	

(例 10) at'is-「準備する」

		sg.	pl.
1		at'isa:mo	at'insa:mo
2		at'issa:to	at'issakko'o:ko
3	m.	at'isa:ko	at'isama:ko
	f.	at'isso'o:ko	

(例 11) we:f- 「呼ぶ」

		sg.	pl.
1		we:fa:mo	we:nfa:mo
2		we:ffa:to	we:ffakko'o:ko
3	m.	we:fa:ko	we:fama:ko
	f.	we:ffo'o:ko	

(例 12) iza:3- 「注文する」

		sg.	pl.
1		iza:3a:mo	iza:n3a:mo
2		iza:33a:to	iza:33akko'o:ko
3	m.	iza:3a:ko	iza:3ama:ko
	f.	iza:33o'o:ko	

(例 13) wofʷ- 「話す」

		sg.	pl.
1		wofʷa:mo	wonʷa:mo
2		wofʷʷa:to	wofʷʷakkʷo:ko
3	m.	wofʷa:ko	wofʷama:ko
	f.	wofʷʷʷo:ko	

(例 14) baʔ- 「恐れる」

		sg.	pl.
1		baʔa:mo	baʔna:mo
2		baʔla:to	baʔlakko'o:ko
3	m.	baʔa:ko	baʔama:ko
	f.	baʔlo'o:ko	

(例 15) moʔ- 「見る」

		sg.	pl.
1		moʔa:mo	moʔna:mo
2		moʔla:to	moʔlakko'o:ko
3	m.	moʔa:ko	moʔama:ko
	f.	moʔlo'o:ko	

(例 16) fir- 「出ていく」

		sg.	pl.
1		fira:mo	filla:mo
2		fitta:to	fittakko'o:ko
3	m.	fira:ko	firama:ko
	f.	fitto'o:ko	

(例 17) diri:r- 「眠る」

		sg.	pl.
1		diri:ra:mo	diri:lla:mo
2		diri:tta:to	dirittakko'o:ko
3	m.	diri:ra:ko	dirirama:ko
	f.	diritto'o:ko	

(例 18) gi:ram- 「燃える」

		sg.	pl.
1		gi:rama:mo	gi:ramma:mo
2		gi:ramta:to	gi:ramtakko'o:ko
3	m.	gi:rama:ko	gi:ramama:ko
	f.	gi:ramto'o:ko	

(例 19) li:ram- 「幸せである」

		sg.	pl.
1		li:rama:mo	li:ramma:mo
2		li:ramta:to [li:ranta:to]	li:ramtakko'o:ko [li:rantakko'o:ko]
3	m.	li:rama:ko	li:ramama:ko
	f.	li:ramto'o:ko [li:ranto'o:ko]	

(例 20) ih- 「適する」

		sg.	pl.
1		iha:mo	inka:mo [injka:mo]
2		ikka:to	ikkakko'o:ko
3	m.	iha:ko	ihama:ko
	f.	ikko'o:ko	

(例 21) leh- 「死ぬ」

		sg.	pl.
1		leha:mo	lena:mo
2		leta:to	letakko ^o :ko
3	m.	leha:ko	lehama:ko
	f.	leto ^o :ko	

(例 22) ammaʔn- 「信じる」

		sg.	pl.
1		ammaʔna:mo	ammaʔnina:mo
2		ammaʔnita:to	ammaʔnitakko ^o :ko
3	m.	ammaʔna:ko	ammaʔnama:ko
	f.	ammaʔnito ^o :ko	

(例 23) doʔl- 「選ぶ」

		sg.	pl.
1		doʔla:mo	doʔlina:mo
2		doʔlita:to	doʔlitakko ^o :ko
3	m.	doʔla:ko	doʔlama:ko
	f.	doʔlito ^o :ko	

(例 24) jokk- 「燃える」

		sg.	pl.
1		jokka:mo	jokkina:mo
2		jokkita:to	jokkitakko ^o :ko
3	m.	jokka:ko	jokkama:ko
	f.	jokkito ^o :ko	

(例 25) fatak- 「引き離す」

		sg.	pl.
1		fataka:mo	fatakina:mo
2		fatakita:to	fatakitakko ^o :ko
3	m.	fataka:ko	fatakama:ko
	f.	fatakito ^o :ko	

(例 26) ʃ- 「殺す」

		sg.	pl.
1		ʃa:mo	ʃina:mo
2		ʃita:to	ʃitakkʔo:ko
3	m.	ʃa:ko	ʃama:ko
	f.	ʃitʔo:ko	

(例 27) j- 「言う」

		sg.	pl.
1		ja:mo	jina:mo
2		jita:to	jitakkoʔo:ko
3	m.	ja:ko	jama:ko (jamama:ko)
	f.	jitoʔo:ko	

(例 28) bat- 「働く」

		sg.	pl.
1		bata:mo	banta:mo
2		batta:to	battakkoʔo:ko
3	m.	bata:ko	batama:ko
	f.	battoʔo:ko	

(例 29) ha:t- 「料理する」

		sg.	pl.
1		ha:ta:mo	ha:nta:mo
2		ha:tta:to	ha:ttakkoʔo:ko
3	m.	ha:ta:ko	ha:tama:ko
	f.	ha:ttoʔo:ko	

(例 30) t'an- 「できる」

		sg.	pl.
1		t'ana:mo	t'anna:mo
2		t'anta:to	t'antakkoʔo:ko
3	m.	t'ana:ko	t'anama:ko
	f.	t'antoʔo:ko	

(例 31) mal- 「疑う」

		sg.	pl.
1		mala:mo	malla:mo
2		malta:to	maltakko'o:ko
3	m.	mala:ko	malama:ko
	f.	malto'o:ko	

(例 32) du:m- 「呪う」

		sg.	pl.
1		du:ma:mo	du:mmamma:mo
2		du:manta:to	du:mantakko'o:ko
3	m.	du:ma:ko	du:mama:ko
	f.	du:manto'o:ko	